

ひだのたくみ

飛騨匠のDNAを受け継ぐものづくりのまち

飛騨高山



ひだのたくみ

今から約1,300年前、飛騨高山を中心とした飛騨の地から、毎年100人ほどの飛騨匠（木工技術者集団）が奈良・平安の都に赴き、約500年に渡って宮殿や寺社の建築に携わりました。その活躍ぶりは『万葉集』や『源氏物語』、『今昔物語』、古典落語等にも描かれており、現在、飛騨高山にある数多くの木造建築物等は、ユネスコ無形文化遺産や日本遺産、国宝、国指定重要文化財などになっています。

3,000メートル級の山々に囲まれた飛騨高山は、多様な山林資源、高地ならではの冷涼な空気、分水嶺から発する清冽な水に恵まれています。冬は厳しく、雪に覆われてしまいます。飛騨匠は、厳しくも豊かな自然環境の中、豊富で多様な山の恵みを活かしたものづくりを展開してきました。

また、飛騨高山は、宗和流茶道の祖・金森宗和（飛騨高山藩主の嫡男）が育った地であり、幕府直轄地（天領）でもありました。京と江戸の文化が交わり、町人文化が発展する中、飛騨匠は、町衆とともに飛騨高山流の独自の文化を育んできました。

今、こうした飛騨匠のDNAは、建築、工芸、家具、農林畜産物、料理、加工食品などの現代の“つくり手”に脈々と受け継がれ、飛騨高山の自然や文化を背景に、数多くの優れた地場産品を生み出しています。

メイド・バイ飛騨高山認証制度について

ひだのたくみ

飛騨匠のDNAを受け継ぐものづくりのまちとして飛騨高山のブランディングを進めることによって文化の継承・発展と経済の活性化を図るため、「飛騨高山の風土と飛騨人の暮らしが生み出す本物、それが飛騨高山ブランド」（飛騨高山ブランドコンセプト）に合致する独自性と信頼性の高い地場産品を認証していきます。

認証の可否は、毎年、市内外の有識者で構成するメイド・バイ飛騨高山認証委員会で審査の上、決定します。

申請にあたっての主な要件

1. 申請対象：市内で生産された農林水産物と市内で製造された製品（加工食品や家具、工芸品など）
2. 申請単位：個別の商品ではなく、同種の商品の総称（商品名）で申請
3. 申請者：2事業者以上で構成する団体、グループが原則。条件により個人事業主も可能

※市内に同一の産品を生産・製造する事業者がない、国内外で高い評価を得ている、組合に所属していても申請に際し承諾を得られている場合は単独でも申請できます。

認証基準

以下の基準に基づいて、メイド・バイ飛騨高山認証委員会が認証の可否を審査します。

項目	内容
基本事項	飛騨高山の風土と飛騨人の暮らしから生み出された産品であることを説明できる物語があるか。
	農林水産物については、主たる生産地が市内であるか。
	製品については、主たる製造場所又は加工場所が市内であるか。
	※やむを得ない理由により、製造場所又は加工場所が市外の場合は、主たる原材料がメイド・バイ飛騨高山認証を受けていることとする。
	市内（原則）で商品として流通しているか。
	各種関係法令を遵守しているか。
独自性	他地域の類似産品に対する優位性や特徴を有しているか。
信頼性	独自性と信頼性を担保できる生産、製造又は加工の基準を設定しているか。
	基準の継続的履行及び遵守、安全安心への取り組み、消費者対応、地球環境への配慮を担保する体制が構築されているか。
将来性	産品のブランド力の維持や向上に対する取り組みを実施又は検討しているか。（産品の将来展望、地域との協力や地域への貢献、基準や産品のPR方法、人材育成等）

※認証の有効期間は3年間となります。

認証ロゴ



認証産品には左記のロゴが表示されます。制作者は高木香菜子さん（東京都在住）です。全国236点の応募の中から、市内の有識者で組織する飛騨高山ブランド戦略会議より厳正なる審査を経て決定しました。

作者のデザインコンセプトは次の通りです。「飛騨高山の町並みや、人々の暮らしを連想させる屋根。豊かな自然を表す太陽、山、川、木々、雪のイラストを組み込んでいます。そしてそれらの中心に飛騨高山の文字を配置することで、文化や歴史、自然に囲まれた素晴らしい土地であること、ひいてはその土地から生まれる産品の品質を保証することが出来るようなロゴを目指しました。色は暖かみのあるセピアにすることで親近感を感じさせる意図があります。また、歴史ある木造建築の色でもあり、飛騨高山を想起させる色でもあります。」